

24. 《長かった関東内乱、江戸城築いた太田道灌（どうかん）》

15世紀、技術革新は、世界秩序をも変えていきます。火薬を使った巨大大砲が開発され、その攻撃を受けた東ローマ帝国は、1453年に滅亡。また同時期に、造船・航海技術のイノベーションがおこり、大航海時代と呼ばれる時代を迎えます。

そのころ、室町幕府は、「鎌倉府」という役所を置いて関東を統治していました。そのトップが“鎌倉公方”、ナンバー2が実権を握る“関東管領”でした。両者とも任命は、室町幕府が行っていましたが、鎌倉府の2重の権力構造が長い内乱を引き起こします。

1455年（享徳3）、鎌倉公方足利成氏（なりうじ）が関東管領上杉憲忠（のりただ）に謀殺されます。それから、鎌倉公方と関東管領上杉家の戦いが始まりました。「享徳の乱」（期間：1455－1483年：注1）です。成氏は、鎌倉公方を罷免されても下総国古河（注2）に拠点を移し、上杉家と関東の覇権をかけて戦います。

太田道灌は、関東管領上杉家の分家に生まれ、1457年（長禄元）、鎌倉公方側と戦う最前線における軍事拠点として江戸城を築きます。そして江戸城の守護として日枝神社、築土神社や平河天満宮などを江戸城周辺に造営。また歌人でもありました。（注3

鎌倉公方と関東管領上杉家の和議が整ったのは、1483年（文明14）のこと。なんと28年間も戦乱が続いたのです。この間、太田道灌は、上杉家のために30回も戦いましたが、逆に上杉家からその信望を妬まれて暗殺されてしまいます。享年55歳。

なお「享徳の乱」の間に、全国では、将軍の跡継ぎ問題に端を発して「応仁の乱」が起こっています。その乱は10年間（期間：1467－1477年）でした。

注1：「享徳の乱」の主要人物の生没年

足利成氏：1438－1497 年

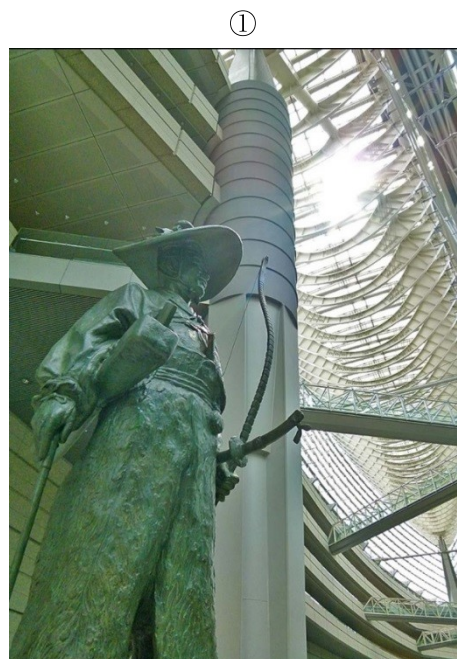
上杉憲忠：1433－1455 年

太田道灌：1432－1486 年

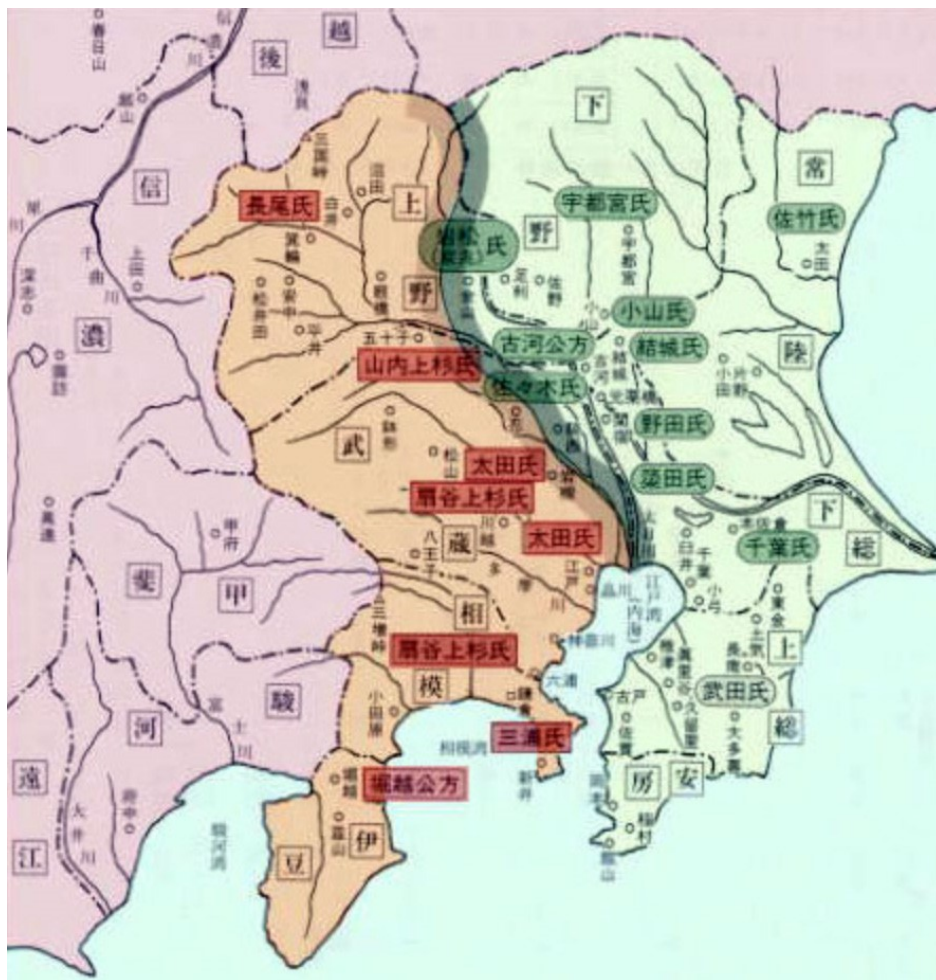
注2：足利氏発祥の地で、現在の茨城県古河市。古河に移った足利成氏は、古河公方と呼ばれ、関東の約半分に支配権を持ちます。古河公方は、五代にわたり 130 年間続きますが、やがて小田原の後北条に屈服します。

注3：道灌は、「吾庵は 松原つつき 海ちかく 富士の高嶺を 軒端にぞ見る」と、江戸城を紹介する歌を詠んでいます。また 1478 年（文明 10）、横浜の小机城を包囲し、「小机は まず手習いの 初めにて いろはにほへと ちりぢりとなる」と詠み味方を鼓舞しています。

写真は、①太田道灌像（朝倉文夫作 東京国際フォーラム内 千代田遺産 HP より）、②古河公方の位置と勢力図（古河公方足利氏 HP 掲載の図に細見が追記する）、③太田道灌の江戸城復元図（西ヶ谷恭弘著「復元図譜・日本の城」掲載図より）



①



②

